平成２９年１１月　３０日

平成２９年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川第二小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２９年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成29年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①	国語Ａ	１１９	人	国語Ｂ	１１９	人
②	算数Ａ	１１９	人	算数Ｂ	１１９	人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

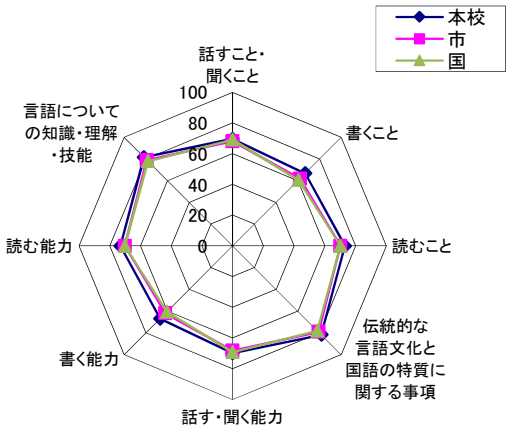
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

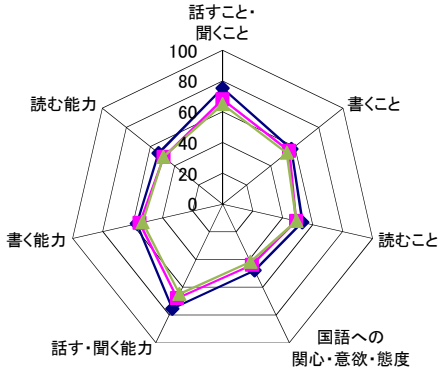
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	69.7	68.2	69.2
	書くこと	66.8	62.0	60.6
	読むこと	73.1	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.7	79.1	78.0
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	69.7	68.2	69.2
	書く能力	66.8	62.0	60.6
	読む能力	73.1	70.2	70.2
	言語についての知識･理解･技能	81.7	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	75.4	68.0	64.9
	書くこと	57.3	55.3	53.4
	読むこと	53.2	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心･意欲･態度	47.9	43.9	41.7
	話す･聞く能力	75.4	68.0	64.9
	書く能力	57.3	55.3	53.4
	読む能力	53.2	49.0	49.2
	言語についての知識･理解･技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

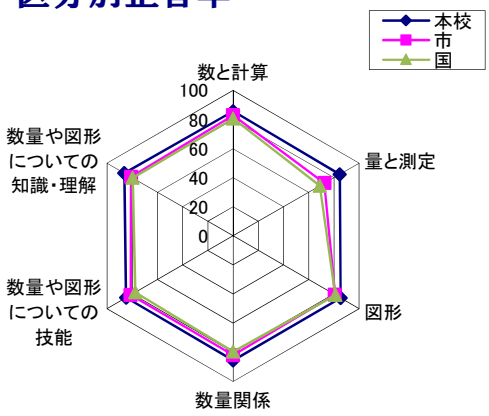
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は国語A,Bともに全国平均を上回っている。 ○平均正答率は国語A，Bともに全国平均，市の平均ともに上回っている。 ○目的や意図に応じ適切な言葉づかいで話すことや話の構成を工夫して話すことについて理解できている。 ●目的や意図に応じた話の構成や内容を工夫し場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことにやや課題がみられる。	･国語の時間だけでなく，特別活動や他教科でも話合い活動を取り入れ，話合いの目的や話合いの進め方などを意識して話合い活動ができるようにする。 ･話合い活動では，互いの考えの共通点や相違点を意識できるような視点を示すなど工夫して指導する。
書くこと	平均正答率は国語A,Bともに全国平均を上回っている。 ○ほぼ全国平均，市の平均と同じである。 ●国語Bでは目的や意図に応じ，必要な内容を整理して書くことに課題がみられる。	･国語の時間だけでなく，総合的な学習の時間や社会科等を活用し，地域での体験学習でお世話になった方へのお礼やお願いの手紙などを書く活動を意図的，計画的に設定し，手紙の書き方の定着を図る。 ･取材した事柄の中から，目的や意図に応じて，事実と感想，意見などと区別した上で，詳しく書く場合と，簡単に書く場合とを適切に判断することができるようにする。具体的には，新聞やリーフレットなど文章の種類や特徴を踏まえ，内容や分量などを考えながら書くというような学習活動を取り入れ，指導していく。
読むこと	平均正答率は国語A,Bともに全国平均を上回っている。 ○俳句の情景をとらえることには成果が見られる。 ●自分の考えを広げたり，深めたりするなど，意図をとらえることには課題が見られる。	･今後も俳句の指導にあたっては，情景や作者の思いを想像したり，伝え合う活動を重点的に取り入れていく。その際，繰り返し音読しながら，言葉の響きやリズムに着目させていく。 ･物語を読んで互いの考えの共通点や相違点を伝え合い，自分の考えを広げたり，深めたりするように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は全国平均と比べ,上回っている。 ○ことわざの意味を理解して，自分の表現に用いることには成果が見られる。 ●漢字を正しく書くことについては，やや課題が見られる。	･国語辞典やことわざ辞典を日常的に活用できるように今後も指導していく。 ･学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習するのみならず，同音異義語に注意するなど，漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにノート指導を充実させていく。

宇都宮市立姿川第二小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

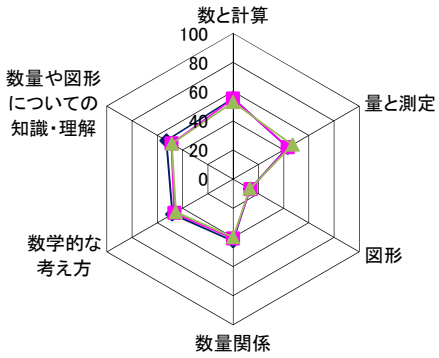
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	85.7	82.9	80.6
	量と測定	84.5	72.5	68.8
	図形	85.3	80.8	81.1
	数量関係	85.5	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	84.9	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	86.3	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.3	55.1	52.8
	量と測定	43.3	43.4	47.0
	図形	13.4	13.8	13.2
	数量関係	42.5	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	48.2	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	52.9	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は算数A，Bともに全国平均を上回っている。 ○基本的な四則計算が身に付いており，数直線を使って1より小さな小数をかけると，商が元の数より小さくなることも理解している。 ●示された資料から必要な数値を選び，答えの求め方を記述することに課題が見られる。	・ドリル学習等を通して，計算の方法や決まりの定着を更に確かなものとなるようにしていく。 ・授業で問題を解く際に，考えたことを言葉や文で表現する方法を指導していくことで，計算を通して解答の導き方を説明できる力を高めていく。
量と測定	平均正答率は算数Aに関しては全国平均を10ポイント以上上回っているが，算数Bの1つの問題で8ポイント下回っている。 ○重さ，長さについて具体物を単位として量を測定することを理解しており，平行四辺形と三角形の底辺と面積の関係も理解している。 ●仮の平均の考えを活用して，測定値の平均の求め方を記述することに課題が見られる。	・出題された内容はよく理解できているが，今後も多くの問題を解くことによって，更に理解が深まるように指導していく。 ・基本的な知識を活用して，別の解き方を考えたり話し合ったりする場を設定することにより，多面的に問題を考えようとする態度や能力を高めていく。
図形	平均正答率は，算数Aは全国や宇都宮市の平均よりも上回っている。算数Bにおいては，全国平均とほぼ同じであるが，宇都宮市の平均をやや下回っている。 ○実際に様々な正多角形を作図したり，構成・分解して図形の性質を押さえたりした成果が表れていると考えられる。立体図形においても，具体物を用いて面と面の位置確認を確認した成果であると考えられる。 ●基準量・比較量・割合の関係を的確に捉えたり，考えを数学的に表現したりすることに課題が見られる。	・今後も，様々な正多角形を作図することで，正多角形の性質を見出し，その性質を利用して正多角形を描く活動を取り入れ，基本的な理解を深められるようにする。 ・立体図形の学習において，具体物を用いて構成活動を行うなど，視覚的に位置関係を捉えられるようにする。 ・問題の中の何が基準量・比較量・割合に当たるのかを押さえたり，その関係を数直線や図に表したりする活動を繰り返し行うことで，基準量・比較量・割合を正しく捉えられるようにする。
数量関係	平均正答率は，全国や宇都宮市の平均を算数は約4ポイント，算数Bは約2ポイント上回っている。 ○基本的な計算の仕方や2つの数量関係の表し方については，よく理解している。問題場面を式に表して未知の数量を求める設問や資料を表に分類整理する設問の正答率も高い。 ●仮の平均の考えを活用して測定値の平均値を求める問題や，料金の差を求めるために示された資料から必要な数値を選び，立式して答えを求める問題に課題が見られた。	・今後も，基本的な内容の定着に向けた練習を継続するとともに，児童の状況に応じてやや複雑な問題も解決する力が身に付くよう，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・基本的な平均の求め方をしっかり押さえた上で，飛び離れた数値を含む測定値の平均を求める学習や，平均値を見積もり工夫して平均値を求める学習も行い，応用力を伸ばす。 ・情報の中から条件に合うものを選択したり，示された方法を他の場面に適用したりする学習を充実させる。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日，同じくらいの時刻に起きていますか」「朝食を毎日食べていますか」の問いに肯定的に答えた児童の割合は9割を超え，県や国の平均よりも高い。基本的生活習慣がしっかり身に付いているといえる。

○平日や休日の家庭での学習時間に関する設問では，ともに「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合が多かった。また，休日の勉強時間では，「2時間以上」と答えた児童の割合が，国や県の平均より約5ポイント高く，良好であった。

○放課後の過ごし方では，「家で勉強や読書をしている」と答えた児童の割合は73.1%と高く，教育に協力的な家庭が多いことがうかがえる。また，塾やスポーツ系の習い事をしている児童の割合も県の平均より高く，時間を有効に活用している児童が多い。

○「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域と関わったりする機会があったと思うか」の設問では，9割以上の肯定的回答があり，国の平均を大きく上回った。本校の特色でもある地域と関わる教育活動の成果が表れている。

○「国語の勉強は大切だ」「国語の授業で学習したことは将来社会で役に立つ」の設問に肯定的な回答をしている割合が多く，国の平均を大きく上回っている。算数においても同様で，学習への意識の高さがうかがえる。

○「算数の授業で新しい問題に出会ったとき，それを解いてみたいと思うか」「算数の問題の解き方がわからないときは，諦めずにいろいろな方法を考えるか」の設問に肯定的な割合が国の平均より高い。習熟度別学習やT.Tでの指導の成果が表れている。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意か」について肯定的回答が県や国の平均より低い。今後は，考えや意見の表し方を指導すると共に，発表する機会を多く設け，抵抗感をなくして自信を持たせるよう支援していく。

●放課後の過ごし方では，「家でテレビやビデオ・DVDを見たり，ゲームをしたり，インターネットをしたりしている」と答えた児童の割合が77.3%であった。また，「携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしている」と答えた児童は全体の63.9%で，県より10ポイント高い。今後もスマートフォンやゲームについて，使い方や悪い影響等，家庭に情報を提示し，協力を呼びかけていく。

●「学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか」という設問に，「ほとんど，または，全くいかない」と答えた児童は全体の23.5%だった。さらに本に親しむ機会を増やしていく必要がある。

●学校の授業の復習に取り組んでいる児童の割合は，県の平均を上回っているが，予習については県の平均を下回っていた。今後は，中学校で予習が必須な教科も増えてくることから，復習だけでなく予習するメリットを伝え，予習の仕方について指導していく。

●「ノートに，学習の目標（めあて，ねらい）とまとめを書いていたと思うか」「授業などで自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいか」の設問に肯定的に回答した児童の割合は国の平均を下回っていた。授業の中で書くこと，話すことを積極的に取り入れ，授業の進め方を工夫するとともに，ノート指導を充実させていく。

宇都宮市立姿川第二小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
各教科等の基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ意欲の向上	・日々の授業の中で，目標（めあて・ねらい）を示すことで，児童が見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。また振り返る活動を通して達成感や満足感を味わわせ，次の学習への意欲につなげていけるようにする。	・「5年生までに受けた授業の中で目標が示されていたと思う」と答えた児童の割合は，全体の95%で，県や全国を上回り良好であった。また，「学習内容を振り返る活動をよく行っていたか」という設問においても，81.5%の児童が「当てはまる」と回答しており，また国や県の平均より上回っていた。
家庭学習の習慣化	・週末の家読を全学年で実施し，学校と家庭とが連携して学習に取り組めるような学習環境作りを呼びかけていく。また家庭学習の進め方など，懇談会をはじめ学年だより等で保護者に協力を呼びかけていく。	・休日の家庭での学習時間では，「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合は34.5%で最も多かった。また，「2時間以上」と回答した児童の割合は29.4%と県や国の平均より約5ポイント高く，良好であった。家庭学習の習慣化がおおむね図られている。しかし，「自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童の割合は，県や国より低く，引き続き家庭学習の進め方について指導を続けていく。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「5年生までに受けた授業で扱うノートには，学習の目標とまとめを書いていたと思いますか。」の設問に，肯定的に回答した児童の割合は県の平均を5ポイント以上低く，課題が見られた。また，授業で自分の考えを多くの人に説明したり，文章に書いたりすることを難しいと答えた児童の割合も県より約3ポイント高く，課題が見られた。	・各教科において，学習のめあての明示から，学び合い・まとめ・振り返り等，授業の進め方を工夫していくとともに，話すこと，書くことを積極的に取り入れていく。	・ノート指導について再度共通理解を図り，書き方を統一していく。（めあて→問題→自分の考えや疑問・感想・友だちの意見を分けて書く→まとめ→振り返りなど） ・授業では，書く活動，話す・話し合う活動を充実させていく。授業の学び合いの場において，一人で考えること，ペアやグループで意見を伝え合うことなど，多様な形態で自分の考えを発表したり交換したりする場を多く設けていく。また，その都度，ノート等に自分の考えを文章でまとめていく時間を確保していく。ノートの書き方，発表の仕方については，こまめに指導するとともに，評価・賞賛し，児童の学習意欲につなげていく。